

- histiocytosis) の 1 例。第 46 回日本リウマチ学会総会・学術集会。2002 年 4 月 22 日-24 日。神戸。
86. 大久保道子、山田秀裕、浜信昭、尾崎承一：原発性シェーグレン症候群に伴う拡張型心筋症にアザチオプリンが有効だった二例。第 46 回日本リウマチ学会総会・学術集会。2002 年 4 月 22 日-24 日。神戸。
87. 廣田浩一、加勢千容、菅田文彦、岡寛、山田秀裕、松田隆秀、尾崎承一：胸腺腫瘍を合併した皮膚筋炎の 2 例。第 46 回日本リウマチ学会総会・学術集会。2002 年 4 月 22 日-24 日。神戸。
88. 大和恒恵、中林公正、山田 明、長澤俊彦：下肢に難治性潰瘍を繰り返し、PGE1 治療が有効であった Buerger 病と考えられる女性症例。第 24 回関東・甲信越 MMC 研究会、東京、2004.2.21.
89. 早川 哲、輕部美穂、児島千恵子、副島昭典、有村義宏、中林公正、山田 明：免疫複合体により毛細血管炎を生じ、間質性腎炎を呈したと思われるループス腎炎の 1 症例。第 8 回腎間質障害研究会、東京、2004.9.11.
90. 中林公正：七隈セミナー 特別講演 血管炎症候群の多彩な臨床症状とその診断法について、第 11 回七隈膠原病セミナー福岡、2004.6.25.
91. 大和恒恵、中林公正、有村義宏、山田 明、長澤俊彦：下肢に難治性潰瘍を繰り返し、Buerger 病と考えられた女性症例。第 9 回 血管病理研究会、東京、2004.10.23.
92. 佐藤美玲、有村義宏、川嶋聰子、宝亀恵美子、大和恒恵、吉原 堅、中林公正、山田 明：MPO-ANCA 陽性 Wegener 肉芽腫症と思われた 2 症例。第 521 回 日内会関東地方会、東京、2004.10.9.
93. Kobayashi S, Ihara T, Muso E, Suzuki K Incidence of microscopic polyangiitis / Wegener's granulomatosis and P-ANCA in Japan. The 4th International Peroxidase Meeting, with the 10th Myeloperoxidase Meeting. Oct 27-20,2004, Kyoto.
94. 田村直人、小林茂人、橋本博史、関節リウマチの治療、医療機器などレギュラトリーサイエンス総合研究事業、血管炎のための人工ポリクローナルグロブリン製剤の開発と安全性向上に関する研究、班会議 2005 年 1 月 8 日、国立感染症研究所、
95. 小林茂人 PSRA を知っていますか？<完治する関節炎> 順天堂医学 50、190-191、2004
96. 小林茂人 リウマチ・膠原病医学の発展 神奈川リウマチ医会のあゆみ 3 1-32、神奈川リウマチ医会、2004
97. 小林茂人、関節痛、関節リウマチについて、順天堂越谷病院第 2 回内科講演会、1 月 24 日、2004
98. 小林茂人、血管炎の診断と治療。第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会、4 月 15 日、2004. 岡山
99. 小林茂人、血管炎の最近の知見、第 24 回愛媛免疫抑制剤研究会、11 月 22 日、2004、松山
100. 小林茂人、血管炎の最近の知見、第 21 回滋賀リウマチ・膠原病臨床医会、平成 16 年 2 月 28 日、津市。
101. 小林茂人、扁桃炎に伴う反応性関節炎について、第 74 回大分県リウマチ懇話会、12 月 16 日大分県医師会、2004.
102. 小林茂人、膠原病の生活の注意点、第 14 回江東区膠原病友の会（秋桜：コスマス）総会記念講演会、10 月 10 日、江東区区民センター、2004
103. 小林茂人、これまでの研究について、順天堂膠原病内科同門会、2 月 21 日、新宿、2004 年
104. Akimoto T, Kobayashi S, Zhong B, Matsumoto T, Hashimoto H. what is the better treatment for relapsing polychondritis? Analysis of 99 Japanese cases. The ACR/ARHP Annual Scientific Meeting .Orlando,FL, Oct 27、2003.
105. Kobayashi S, Tamura N, Akimoto T, Takaya M, Ikeda M, Hashimoto H. Clinical manifestations of Churg-Strauss syndrome (CSS) following treatment with cysteinyl leukotriene type I receptor antagonist.. 11th International Vasculitis and ANCA Workshop. Prague, Czech Republic, Oct 2-5,2003.
106. 小林茂人、田村直人、石塚修吾、高谷磨紀代、池田 真、金田和彦、戸叶嘉明、橋本博史. Cysteinyl leukotriene type I receptor antagonist (LTRAs) と Churg-Strauss syndrome (CSS) に関する

- する研究. 厚生労働科学研究費補助金. 特定疾患対策研究事業、難治性血管炎に関する研究、平成 14 年度総括・分担研究報告書 32-41, 2003.
107. 小林茂人、田村直人、高谷磨紀代、多田久里守、加藤和則. 全身性エリテマトーデス(SLE)末梢リンパ球におけるシグナル伝達異常-CD154 発現異常への関与について. 厚生労働科学研究費補助金. 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業. 免疫難病のシグナル異常と病態解明・治療応用に関する研究. 平成 14 年度総括・分担研究報告書. 25-28, 2003
108. 中林公正、小林茂人、吉田雅治、山田秀裕、他。中・小血管炎の標準的治療法に関する分科会報告. 厚生労働科学研究費補助金. 特定疾患対策研究事業、難治性血管炎に関する研究、平成 14 年度総括・分担研究報告書 11-13, 2003.
109. 小林茂人、池田 真、田嶋美智子、田村直人、橋本博史 他. 関節リウマチ患者骨髄幹 細胞における遺伝子発現の異常に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金. 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業. 関節リウマチの反応性規定因子の同定と、それを用いた新治療方針確立に関する総合的研究、平成 14 年度総括・分担研究報告書 27-29, 2003.
110. 小林茂人、田村直人、石塚修悟、高谷磨紀代、池田 真、金田和彦、戸叶嘉明、橋本博史. Churg-Strauss 症候群(CSS): 当院 27 症例と喘息治療薬(cysteinyl leukotriene type I receptor antagonist)誘発症例との臨床的比較. 日本リウマチ学会総会. 平成 15 年 4 月 24 日、東京、2003.
111. 小林茂人. シンポジウム. 「血清反応陰性脊椎関節症の臨床ガイドライン作成に向けて EBM に立脚したガイドライン」診断と鑑別診断. 第 13 回日本脊椎関節炎(AS)研究会 2003 年 11 月 15 日、ホテルキャッスルプラザ、名古屋、
112. 小林茂人. 血管炎における最近の知見. 第 24 回愛媛免疫抑制剤研究会、2003 年 11 月 22 日、国際ホテル松山、松山、
113. 小林茂人. AS の温泉運動療法の有効性について. らくちん 2003;15:79-80.
114. 小林茂人. 健康・老化・生活習慣病. 健康、保健ニュース、順天堂健康管理センター、平成 15 年 10 月 1 日、59 号、3-4.
115. Kobayashi S, Yano T, Matsumoto Y, Numano F, Nakajima N, Yasuda K, Yutani C, Tamakoshi A, Kawamura T, Ohno Y, Inaba Y, Hashimoto H. Clinical and epidemiological analyse of giant cell (temporal) arteritis from a nationwide survey in 1998 in Japan: The first government supported nationwide survey. The 10th International vasculitis and ANCA Workshop. April 27, Cleveland, 2002.
116. Kobayashi S, Yano T, Matsumoto Y, Numano F, Nakajima N, Yasuda K, Yutani C, Tamakoshi A, Kawamura T, Ohno Y, Inaba Y, Hashimoto H. Clinical and epidemiological analyse of giant cell (temporal) arteritis from a nationwide survey in 1998 in Japan: The first government supported nationwide survey. 2002. 26th International Congress of Internal Medicine, May Kyoto, 2002
117. Shiraishi K, Yoshimoto K, Abe T, Tsuzaka K, et al. The EULAR annual congress of rheumatology, Berlin, Germany, June, 2004
118. Tsuzaka K, Setoyama Y, Yoshimoto K, et al. American College of Rheumatology, 68th ACR Annual Meeting, San Antonio, U.S.A., October, 2004
119. 津坂憲政、瀬戸山由美子、吉本桂子、他。第 48 回日本リウマチ学会総会、2004 年 4 月。
120. Tsuzaka K (国際シンポジウム) 第 32 回日本臨床免疫学会総会。2004 年 10 月。
121. Tsuzaka K, Nozaki K, Kumazawa C, et al. 第 34 回日本免疫学会総会、2004 年 1 月。
122. Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. 67th ACR Annual Meeting, Orlando, U.S.A., October, 2003
123. Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. (国際ワークショップ) 第 47 回日本リウマチ学会総会、2003 年 4 月。
124. 津坂憲政。第 13 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会(シンポジウム)、2003 年 9 月。
125. 福原いづみ、津坂憲政、瀬戸山由美子、他。第 31 回日本臨床免疫学会総会。2003 年 10 月
126. Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. 第 33 回日本免疫学会総会、2003 年 1 月。
127. Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al.

- 66th ACR Annual Meeting, New Orleans, U.S.A., October, 2002
128. Tsuzaka K, Shiraishi K, Tsubota K, et al. 66th ACR Annual Meeting, New Orleans, U.S.A., October, 2002
129. 津坂憲政、安倍達、竹内勤。第 46 回日本リウマチ学会総会, 2002 年 4 月。
130. Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. 第 32 回日本免疫学会総会、2002 年 11 月。
131. Fukumi Furukawa: Animal models of lupus erythematosus, First International Conference on Cutaneous Lupus Erythematosus in cooperation with the American College of Rheumatology (ACR) Response Criteria Committee on SLE, Duesseldorf, Germany, September 1 - 5, 2004
132. Yamamoto Y, Sakai A, Yoshimasu T, Furukawa F: P-cadherin Expression in Skin Peeled with Phenol or Trichloroacetic Acid (TCA). American Academy of Dermatology 62nd annual meeting, 2004. Feb 6-11, Washington DC
133. Nishide T, Yoshimasu T, Seo N, Ohtani T, Uede K, Furukawa F: The cytokine profiles in skin lesion of drug-induced DLE model mice treated with UVB light and fluorouracil. Drug Hypersensitivity Meeting, 2004. May 5-8, Bern
134. Ohtani T, Toda K, Furukawa F: Cardiovascular drug hydralazine inhibits proliferation and induces apoptosis in vascular endothelial cells in vitro. Drug Hypersensitivity Meeting, 2004. May 5-8, Bern
135. Toshio Ohtani, Fukumi Furukawa : Cardiovascular Drug Hydralazine Inhibits Viability and Induces Apoptosis in Murine Vascular Endothelial Cells. The 6th Asia Pacific Congress of Allergology and Clinical Immunology. 2004.Oct.4-7, Tokyo
136. Yamamoto Y, Uede K, Furukawa F: Effects of alpha-hydroxy acids on human skin: rationale for chemical peeling. 2nd Australian Health and Medical Research Congress 2004. Nov. 22-26, Sydney
137. Shigeo Shinohara, Junko Kamimura, Fumiki Harano, Hideo Tanaka, Sachiyō Igarashi, Mitsuaki Kawamura, Sigekatsu Kawabata, Osamu Takasu, Kohsaburo Wakamatsu, Masahiko Tanaka, Misato Yago, Yasuo Furuta, Noboru Yoshino, Fukumi Furukawa, Makoto Kawashima, Yoshiaki Miyachi: Skin-lightening effects based on accelerated epidermal turnover, The 8th China-Japan Joint Meeting of Dermatology Nov. 12-14, 2004, Kunming, China
138. Kishi T, Toyozawa S, Sakurane M, Furukawa F: A case of metastatic lesion of melanoma reduced by ultrasound-guided ethanol injection therapy, The 8th China-Japan Joint Meeting of Dermatology Nov. 12-14, 2004, Kunming, China
139. 古川福実：皮膚と消化管。第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16. 京都
140. 山本有紀：ケミカルピーリングによる皮膚がんの治療。第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16. 京都
141. 古川福実：ミニレクチャー：ガイドラインに沿ったケミカルピーリング治療。第55回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2004.9.11-12. 金沢
142. 大谷稔男：シンポジウム 薬疹の遺伝子診断。第55回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2004.9.11-12. 金沢
143. 岸岡亜紀子、山本有紀、古川福実、久保健太郎、黒柳能充：培養真皮が有効であったSLEの難治性下腿潰瘍、第27回皮膚脈管膠原病研究会、2004.1.29-30. 奈良
144. 貴志知生、豊澤聖子、櫻根幹久、古川福実：エーガイド下エタノール注入療法で転移病変の著明縮小が得られた悪性黒色腫の1例、第22回日本臨床皮膚外科学会学術大会、2004.2.28. 大阪
145. 山本有紀、上出康二、古川福実：グリコール酸の長期塗布による組織学的検討、第22回日本臨床皮膚外科学会学術大会、2004.2.28. 大阪
146. 池田高治、古川福実：皮膚硬化モデルマウスに対するエトレチナートの効果。日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会・総会, 2004.4.14-16. 京都
147. 酒井亜紀、山本有紀、上出康二、古川福実：ケミカルピーリングにおけるヒト表皮ラングルハンス細胞の変化。日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会・総会, 2004.4.14-16. 京都
148. 西出武司、大谷稔男、古川福実：MRP/lprマウスの皮膚におけるサイトカインの解析。日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会・総会, 2004.4.14-16. 京都

149. 大谷稔男、古川福実、戸田憲一：ヒドラジンはマウス皮膚由来血管内皮細胞株のアポトーシスを誘導する。日本研究皮膚科学会第29回年次学術大会・総会、2004.4.14-16. 京都
150. 山本有紀、上出康二、古川福実：グリコール酸のヒト皮膚におよぼす組織障害性と創傷治癒機転。第29回日本研究皮膚科学会、2004.4.14-16. 京都
151. 南 好美、上出康二、佐川和則、木村 章彦、辻 力、古川福実：新しいエクリン汗腺の抗原 dermcidin. 第29回日本研究皮膚科学会、2004.4.14-16. 京都
152. 池田高治、古川福実：エトレチナートの皮膚硬化モデルマウスへの効果。第16回日本アレルギー学会春季臨床大会、2004.3.12-14. 群馬
153. 酒井亜紀、岸岡亜紀子、山本有紀、上出康二、古川福実、上中智香子、金原彰子、大原國章：左胸部に発生した巨大腫瘍の1例。第20回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、2004.5.14-15. 熊本
154. 山本有紀、上出康二、古川福実：トリクロロ酢酸(TCA)とフェノールのヒト皮膚に対する障害性の検討。第5回光老化研究会、2004.7.9.青森
155. 大谷稔男、古川福実、戸田憲一：薬剤によるマウス皮膚由来血管内皮細胞株(F-2)の細胞死誘導についての検討。第34回日本皮膚アレルギー学会、2004.7.18. 富山
156. 中村智之、古川福実、村垣泰光、大島 章：Tricho-rhino-phalangeal syndromeにおける毛髪発育異常の発症機序解明の試み -Trps1ノックアウトマウスを用いて-。第34回日本皮膚アレルギー学会、2004.7.18. 富山
157. 池田高治、古川福実：皮膚硬化マウスに対するエトレチナートの軟化作用の検討。第55回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2004.9.11-12. 金沢
158. 木村文子、上出康二、豊澤聖子、向山 弘展、貴志知生、山本有紀、古川福実、加川志津子、黒柳能光：熱傷患者に使用した培養真皮の有用性。第55回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2004.9.11-12. 金沢
159. 豊澤聖子、岡本勝行、上出康二、古川福実、島影達也：発症40年後に肺転移で死亡した類上皮肉腫の1例。第55回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2004.9.11-12. 金沢
160. 中村智之、村垣泰光、大島 章、古川福実：Tricho-rhino-phalangeal syndromeにおける毛髪発育異常の発症機序解明の試み。第54回日本アレルギー学会、2004.11.4-6. 横浜
161. 大谷稔男、古川福実、戸田憲一：ヒドラジンによるマウス皮膚由来血管内皮細胞株(F-2)のアポトーシス誘導。第54回日本アレルギー学会、2004.11.4-6. 横浜
162. 池田高治、西出武司、大谷稔男、古川福実：MRLマウスの皮膚に対するビタミンA酸誘導体etretinateの効果。第34回日本免疫学会総会・学術集会、2004.12.1-4. 札幌
163. 西出武司、吉益 隆、池田高治、瀬尾 尚宏、大谷稔男、古川福実：ループスモデルマウスの皮膚病変におけるサイトカイン産生。第34回日本免疫学会総会・学術集会、2004.12.1-4. 札幌
164. 西出武司、山本有紀、大谷稔男、古川福実、太田智秋：頭部血管肉腫の1例、第381回日本皮膚科学会大阪地方会、2004.2.7. 大阪
165. 上出康二：平成15年度皮膚がん無料相談のまとめ、第12回和歌山県皮膚科医会、2004.3.13. 和歌山
166. 山本有紀：ロボスキンアナライザーの導入について、第12回和歌山県皮膚科医会、2004.3.13. 和歌山
167. 山本有紀:Aesthetic dermatology, where are we now?、第13回和歌山県皮膚科医会、2004.10.02. 和歌山
168. 豊澤聖子、喜志知生、櫻根幹久、古川福実：エタノール注入療法で転移病変の縮小が得られた悪性黒色腫の1例、第382回日本皮膚科学会大阪地方会、2004.3.28. 大阪
169. 酒井亜紀、上出康二、古川福実：Tailgut cystの1例、第383回日本皮膚科学会大阪地方会、2004.5.8. 大阪
170. 豊澤聖子、大谷稔男、古川福実、田村 彰、上村 茂：心嚢液貯留を呈した小児強皮症の1例。第384回日本皮膚科学会大阪地方会、2004.7.3. 奈良
171. 中瀬幸穂、貴志知生、古川福実：Spiradenomaの1例。第385回日本皮膚科学会大阪地方会和歌山地区会、2004.9.25. 和歌山
172. 酒井亜紀、山本有紀、上出康二、古川福実：日本皮膚科学会中部支部学術大会、2004.9.11-12. 金沢

- 福実、木村明彦：皮膚腫瘍におけるA B O式血液型基幹糖鎖アイソタイプの発現. 第385回日本皮膚科学会大阪地方会和歌山地区会, 2004.9.25. 和歌山
173. 向井舞子、池田高治、大谷稔男、古川福実、中尾大成：抹消血好酸球增多を伴ったメシル酸ガベキサート (F O Y) によると考えられた皮下硬結の1例. 第385回日本皮膚科学会大阪地方会和歌山地区会, 2004.9.25. 和歌山
174. Yoshimasu T, Furukawa E, Ohtani T, Hiroi A, Seo N: Th1 predominance of fluorouracil-induced discoid lupus erythematosus in TCR α chain knockout mouse. 4th International Investigative Dermatology, 2003.4.30-5.4, Miami
175. Ikeda T, Uede K, Hasizume H, Furukawa E: Etretinate improves sclerotic skin of systemic sclerosis. 4th International Investigative Dermatology, 2003.4.30-5.4, Miami
176. Yamamoto Y, Ohtani T, Uede K, Furukawa E, Yonei N, Kaminaka C: Phenol and trichloroacetic acid peeling is a new tool as non-invasive therapy to the aged patients with skin cancer. 4th International Investigative Dermatology, 2003.4.30-5.4, Miami
177. T. Yoshimasu, A. Hiroi, N. Seo, T. Ohtani, and E. Furukawa: Th1 predominance of Fluorouracil-induced Discoid Lupus Erythematosus in TCR α Chain Knockout Mouse., The Montagna Symposium, "Stem Cells in Skin." June 15, 2003 Snowmass Village, Colorado
178. Yamamoto Y, Uede K, Sakai A, Furukawa E: Change of epidermal Langerhans cells in chemically peeled skin, 8th International Workshop on Langerhans Cells, 2003. 9. 5-7, Tokyo
179. Minami Y, Uede K, Furukawa F, Sagawa K, Kimura A, Tsuji T: Coexistence of eccrine and apocrine differentiation in a cutaneous mixed tumor. Immunohistochemistry of C8/144B and Dermcidin, Australasian College of Dermatologists and the Japanese Dermatological Society. 2003. 9.18 - 21, Ayers Rock, Northern Territory, Australia.
180. 古川福実：アトピー性皮膚炎治療の進歩 シンポジウム4 ステロイド軟膏とタクロリムス軟膏の適正使用ガイドライン、第53回日本アレルギー学会、2003.10.23、岐阜
181. 山本有紀：ケミカルピーリング、第19回日本臨床皮膚科医学会総会・臨床学術大会、シンポジウム美容皮膚科を始めよう、2003.4.20、京都
182. 山本有紀：ケミカルピーリングの組織学的変化、第67回日本皮膚科学会東部支部総会・学術大会、シンポジウム Cosmetology up-to-date、2003.9.29、旭川
183. 山本有紀：シンポジウム「ケミカルピーリングはなにができるか？」第54回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2003.11.8-9、大阪
184. 古川福実：シンポジウム 膜原病関連病態 「成人発症 S t i l l 病」 第54回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2003.11.8-9、大阪
185. 山本有紀：皮膚腫瘍への応用の試み、平成15年度日本皮膚科学会中部支部生涯セミナー「皮膚科学に基づいたケミカルピーリング」、2003.7.6. 大阪
186. 上出康二：教育講演「U V A 療法」 第54回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2003.11.8-9、大阪
187. 三木田 直哉、上出康二、古川福実：急速に増大し気管や食道の圧迫を伴った頭部血管肉腫、第26回皮膚脈管・膜原病研究会、2003.1.30-31、千葉
188. 池田高治、上出康二、古川福実、橋爪秀夫：modified Rodnan TSS system を用いた強皮症の皮膚硬化への etretinate の有用性の検討、第26回皮膚脈管・膜原病研究会、2003.1.30-31、千葉
189. 貴志知生、大谷稔男、古川福実：sinusoidal hemangioma の1例、第66回日本皮膚科学会東京支部学術大会、2003.2.15-16、東京
190. 岡本勝行、貴志知生、山本有紀、上出康二、古川福実、高木 正：Gate flap にて再建した下口唇の有棘細胞癌の1例、第19回日本臨床皮膚科医学会総会・臨床学術大会、2003.4.19-20、京都
191. 大谷稔男、岡本勝行、貴志知生、櫻根幹久、山本有紀、南 好美、上出康二、古川福実：著明な好酸球增多症を

- 伴う手足の紫紅色斑で発症し、急速に壊疽を生じた1例。第15回日本アレルギー学会春季臨床大会、2003.5.12-14 横浜
192. 上中智香子、米井 希、大谷稔男、上出康二、古川福実：骨髓異形成症候群に合併した好中球性皮膚症の1例。第102回日本皮膚科学会総会、2003.5.23-25. 千葉
193. 上出康二、古川福実：和歌山における砒素混入カレー中毒事件5年目の総括一皮膚症状を中心に—。第102回日本皮膚科学会総会、2003.5.23-25. 千葉
194. 南 好美、上出康二、古川福実、佐川和則、木村章彦、辻 力：dermcidinに対するモノクローナル抗体(G-81)を用いた免疫組織化学的検討。第102回日本皮膚科学会総会、2003.5.23-25. 千葉
195. 岡本勝行、櫻根幹久、山本有紀、上出康二、古川福実：乳幼児筋線維腫症の1例。第27回日本小児皮膚科学会、2003.6.28-29. 千葉
196. 岸岡亜紀子、山本有紀、古川福実、船坂陽子、伊藤正俊：「日本ケミカルピーリングガイドライン2001」に関するアンケート調査の結果、第21回日本美容皮膚科学会、2003.8.9-10. 東京
197. 米井 希、櫻根幹久、浜 喜和、山本有紀、上出康二、古川福実、高木 正：腹部有茎皮弁にて再建した右第1指の壊疽性膿皮症後瘢痕。第18回日本皮膚外科学会・学術集会、2003.8.23-24. 岐阜
198. 櫻根幹久、大谷稔男、上出康二、古川福実、三木田直哉：和歌山医大皮膚科における乾癬性関節症の臨床的統計、第18回日本乾癬学会、2003.9.12. 岐阜
199. 山本有紀、岸岡亜紀子、浜野理佐、古川福実：TCA塗布後に再発を認めた日光角化症の一例、日本皮膚科学会第326回福岡地方会(戸倉新樹教授就任・産業医大皮膚科学教室開講25周年記念)、2003.9.14. 北九州
200. 瀬尾尚宏、北中 進、古川福実、瀧川雅浩：天然抗アレルギー薬物投与における免疫調節性T細胞活性低下と腫瘍増殖抑制、第62回日本癌学会、2003.9.25-27. 名古屋
201. 貴志知生、豊澤聖子、三木田直哉、山本有紀、古川福実：電撃傷の1例。第67回日本皮膚科学会東部支部総会・学術大会、2003.9.29. 旭川
202. 大谷稔男、西出武司、上出康二、古川福実：遅発型悪性症候群の1例、第53回日本アレルギー学会、2003.10.23. 岐阜
203. 櫻根幹久、池田高治、貴志知生、山本有紀、上出康二、古川福実、金原彰子、岸 和史：動注療法を施行した下口唇癌の1例—当科における下口唇癌の動注療法のまとめ—、第55回日本皮膚科学会西部支部学術大会、2003.10.25-26. 愛媛
204. 浜野理佐、池田高治、櫻根幹久、上出康二、古川福実：前頭部に帶状の脱毛班を認めたloose anagen syndromeの1例、第54回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2003.11.8-9. 大阪
205. 上中智香子、山本有紀、上出康二、古川福実、金原彰子、白方裕司、橋本公二：自己表皮培養シート移植を試みた90%熱傷の一例、第11回日本熱傷学会近畿地方会、和歌山、2003.1.15
206. 貴志知生、三木田直哉、上中智香子、米井 希、山本有紀、古川福実：和歌山県立医科大学皮膚科レーザー外来の統計、第34回和歌山県医師会医学会総会、和歌山、2003.1.26
207. 西出武司、櫻根幹久、古川福実：オメプラゾール内服およびH.pylori除菌療法中に発症した薬疹の1例、第34回和歌山県医師会医学会総会、和歌山、2003.1.26
208. 上中智香子、木村文子、山本有紀、上出康二、古川福実、黒柳能充：培養真皮の症例報告、第34回和歌山県医師会医学会総会、和歌山、2003.1.26
209. 西出武司：2002年皮膚癌無料相談のまとめ、第9回和歌山県皮膚科医会学術講演会、2003.2.1.2003
210. 貴志知生：和歌山県立医科大学皮膚科レーザー外来の紹介、第9回和歌山県皮膚科医会学術講演会、2003.2.1.2003
211. 古川福実、吉益 隆：薬剤性ループスエリテマトーデスのモデル、第375回日本皮膚科学会大阪地方会、2003.2.9. 大阪
212. 古川福実、山本有紀、米井希、上中智香子：TCA、フェノールによるケミカ

- ルピーリングにて加療した外陰部パジエット病の3例、第383回日本皮膚科学会京滋地方会、2002.3.15、大津市
213. 米井 希、櫻根幹久、浜 喜和、山本有紀、上出康二、古川福実：右第1指に発症した壊疽性膿皮症、第376回日本皮膚科学会大阪地方会、2003.3.29、神戸
214. 豊澤聖子、三木田直哉、貴志知生、山本有紀、古川福実：電撃傷の1例、第377回日本皮膚科学会大阪地方会、2003.5.10、西宮
215. 櫻根幹久：乾癬外来の紹介、第10回和歌山県皮膚科医会学術講演会、2003.6.7.2003
216. 大谷稔男：薬疹患者の遺伝子解析、第10回和歌山県皮膚科医会学術講演会、2003.6.7.2003
217. 西出武司、吉益 隆、大谷稔男、古川福実：紫外線(UVB)照射とフルオロウラシル投与による薬剤性DLEモデルマウスのサイトカイン産生、第4回光老化研究会、2003.7.18.神戸
218. 岸岡亜紀子、山本有紀、古川福実、船坂陽子、伊藤正俊：「日本ケミカルピーリングガイドライン2001」に関するアンケート調査の結果、第378回日本皮膚科学会大阪地方会、2003.7.19、奈良
219. 池田高治、山本有紀、上出康二、古川福実：潰瘍性大腸炎を伴い両側頸部に生じた壊疽性膿皮症の一例、第379回日本皮膚科学会大阪地方会、2003.9.6、和歌山
220. 岸岡亜紀子：ケミカルピーリングガイドライン2001の改訂について－アンケート調査結果、第11回和歌山県皮膚科医会学術講演会・和歌山医大レポート、2003.10.4、和歌山
221. 南 好美：新しいエクリン汗線の抗原dermcidin、第11回和歌山県皮膚科医会学術講演会・和歌山医大レポート、2003.10.4、和歌山
222. 上中智香子、岸岡亜紀子、米井 希、酒井亜紀、山本有紀、古川福実：しみに対するケミカルピーリングの効果、第380回日本皮膚科学会大阪地方会和歌山県開催.2003.12.6. 白浜
223. 岸岡亜紀子、山本有紀、古川福実：「日本皮膚科学会ケミカルピーリングガイドライン2001」の改訂案について、第380回日本皮膚科学会大阪地方会 和歌山県開催.2003.12.6. 白浜
224. 廣井彰久、上出康二：Oral allergy syndromeの1例、第380回日本皮膚科学会大阪地方会 和歌山県開催.2003.12.6. 白浜
225. 西出武司、古川福実：皮膚筋炎と肺癌の合併例、第380回日本皮膚科学会大阪地方会 和歌山県開催.2003.12.6. 白浜
226. 岡本勝行、浜野理佐、岸岡亜紀子、櫻根幹久、山本有紀、上出康二、古川福実：当科における皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検、第380回日本皮膚科学会大阪地方会 和歌山県開催.2003.12.6. 白浜
227. 三木田直哉、島影達也、久徳茂雄、黒岡定浩、富野祐里、貴志知生、中村智之：マイクロコイルMRIを使用した皮膚・皮下腫瘍の2例、第380回日本皮膚科学会大阪地方会 和歌山県開催.2003.12.6. 白浜
228. F.Furukawa: Dermatology-based chemical peeling. The 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology , China, 2002. 12. 6-8.
229. F.Furukawa: Murine models of cutaneous lupus, 20th World Congress of Dermatology, Paris, 2002. 7. 1- 5.
230. Kanehara S, Kishi T, Ohtani T, Aioi A, Uede K, Furukawa F: Clinical effects of gamma-linolenic acid coated undershirts on children with atopic dermatitis, 63rd Annual Meeting of Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, 2002.5.15-18
231. Yoshimasu T, Hiroi A, Seo N, Ohtani T, Furukawa F: Cytokine productions of a model for fluorouracil-induced discoid lupus erythematosus in TCR alpha chain knockout mouse, 63rd Annual Meeting of Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, 2002.5.15-18
232. Uede Koji, Hiroi Akihisa, Nakamura Tomoyuki, Kishi Tomoo, Furukawa Fukumi: Low dose Ultraviolet A1 (340-400 nm) phototherapy for erythrodermic cutaneous T-cell lymphoma, First Asian Conference on Photobiology, Awaji, 2002. 6. 26-28.
233. Yoshimasu T, Hiroi A, Seo N, Ohtani T,

- Furukawa F: Cytokine productions of a model for fluorouracil-induced discoid lupus erythematosus in TCR alpha chain knockout mouse, First Asian Conference on Photobiology, Awaji, 2002. 6. 26-28.
234. Y Yamamoto, N Yonei, C Kaminaka, T Kishi, K Uede, F Furukawa: Chemical peeling for the aged patients with skin cancer, 20th World Congress of Dermatology, Paris, 2002. 7. 1-5.
235. Y Yamamoto, N Yonei, C Kaminaka, T Kishi, K Uede, F Furukawa: Chemical peeling for the aged patients with skin cancer . The 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology, China, 2002. 12. 6-8.
236. Kishi T, Yamamoto Y, Furukawa F: A case of fasciitis panniculitis syndrome. The 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology, China, 2002. 12. 6-8.
237. A Shiotani, M Sakurane, F Furukawa. Helicobacter pylori -positive patients with pruritic skin diseases are a high-risk group of gastric cancer. EHPSG 15th International Workshop Gastrointestinal Pathology and Helicobacter Pylori, Athens Greece, 2002.9.12.
238. Takaharu Ikeda, Koji uede, Hideo Hashizume, Fukumi Furukawa: Clinical improvements of skin sclerosis of systemic sclerosis by vitamin A derivative etretinate. 5th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium, 2002.6, Yamaguchi
239. 古川福実：「アトピー性皮膚炎の痒みに対する肌着の役割」第 54 回日本衣服学会総会、2002. 11. 9 大阪
240. 古川福実：皮膚と消化管. 第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16. 京都
241. 山本有紀：ケミカルピーリングによる皮膚がんの治療. 第 103 回日本皮膚科学会, 2002.4.16. 京都
242. 古川福実：難治性要因としての感染症、第 14 回日本アレルギー学会春季臨床大会、2002.3.21 千葉
243. 古川福実：自己免疫疾患克服へのアプローチ「自己免疫疾患と光線過敏」 2002.3.9 東京
244. 古川福実：シンポジウム「自己免疫疾患の治療指針－治療法の選択とタイミング」、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.16. 岐阜
245. 古川福実：ケミカルピーリングへの皮膚科医のスタンス、第 20 回日本臨床皮膚科医会近畿支部学術学会, 2002.7.11. 大阪
246. 池田高治、大谷稔男、上出康二、古川福実：疾患特異的自己抗体を見ずに間質性肺炎が進行した SLE の 1 例、第 25 回皮膚脈管・膠原病研究会、2002.1.31 鹿児島
247. 櫻根幹久、古川福実：アトピー性皮膚炎における IgE 型抗ヘリコバクター・ピロリ抗体、第 14 回日本アレルギー学会春季臨床大会、2002.3.21 千葉
248. 山本有紀、貴志知生、米井 希、上中智香子、上出康二、古川福実：皮膚悪性腫瘍に対するケミカルピーリングの効果、第 101 回日本皮膚科学会総会、2002.6.7-9 熊本
249. 岸岡亜紀子、米井 希、廣井彰久、山本有紀、上出康二、古川福実：巨大脂肪腫の一例、第 101 回日本皮膚科学会総会、2002.6.7-9 熊本
250. 竹原和彦、飯塚 一、中川秀己、川島 真、塩原哲夫、江藤隆史、古川福実、松永佳世子、橋本公二、古江増隆：アトピー性皮膚炎治療問題委員会・2 年間の活動最終報告、第 101 回日本皮膚科学会総会、2002.6.7-9 熊本
251. 米井 希、山本有紀、廣井彰久、上出康二、古川福実：淡紅色皮下腫瘍を呈した上口唇の基底細胞癌の一例、第 18 回日本悪性腫瘍学会学術大会、2002.6.21 鳥取
252. 廣井彰久、道和百合、大谷稔男、上出康二、古川福実：メシル酸イマチニブ（グリベック）が原因と考えられた TEN 型薬疹の 1 例、第 32 回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会、2002.7.20 大阪
253. 大谷稔男、道和百合、中瀬幸穂、廣井彰久、櫻根幹久、古川福実：NAT 2 の遺伝子型を判定した SASP による伝染性単核球症様薬疹の 2 例、第 32 回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会、2002.7.21 大阪
254. 金原彰子、山本有紀、大谷稔男、上出康二、古川福実：アトピー性皮膚炎に対するガンマリノレン酸付着肌着の効果、第 32 回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会、2002.7.21 大阪

255. 吉益 隆、廣井彰久、大谷稔男、古川福実：TCR α 鎖ノックアウトマウスによる薬剤性 DLE モデルのサイトカイン産生に関する研究、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3 京都
256. 大谷稔男、古川福実：弾力纖維性仮性黄色腫(PXE)の ABCC6 遺伝子解析、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3 京都
257. 山本有紀、上中智香子、米井希、大谷稔男、上出康二、古川福実：TCA あるいはフェノール塗布による基底細胞癌および外陰部ページェット病変の組織学的变化、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3 京都
258. 古川福実：セクションレビュウ、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3 京都
259. 米井 希、山本有紀、上中智香子、古川福実、宮崎孝夫：尋常性ざ瘡、毛孔性性苔癬、アトピー性皮膚炎の dirty neck に対するケイセイ jorbi GA ジエルの使用経験、第 20 回日本美容皮膚科学会、2002.9.1 東京
260. 池田高治、上出康二、橋爪秀夫、古川福実：Modified Rodnann TSS score を用いた強皮症の皮膚病変へのエトレチナートの有用性、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.15-16 岐阜
261. 岸岡亜紀子、浜中 宏、辻岡 鑿、井田達也、前田直人：遺伝子解析を行った骨髄性プロトポルフィリン症の一家系、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.15-16 岐阜
262. 上中智香子、上出康二、廣井彰久、古川福実、川口雅功：クワシオルコール症候群の 1 例、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.15-16 岐阜
263. 小西朝子、藤井秀孝、立花隆夫、錦織千佳子、田中俊宏、戸田憲一、堀口裕治、岡本祐之、古川福実、宮地良樹：尋常性白斑に対する suction blister epidermis graft (S B E G)、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.16 岐阜
264. 池田高治、上出康二、古川福実：塩酸テルビナフィンが奏効した治療抵抗性の遠心性環状紅斑の 1 例、第 56 回日本医真菌学会総会、2002.9.28-29 東京
265. 上中智香子、廣井彰久、上出康二、古川福実：コンパートメント症候群の水疱一トリアソラム大量服用後に認められた症例、第 24 回水疱症研究会、2002.10.4 千葉県
266. 三木田直哉、櫻根幹久、上出康二、古川福実：乾癬性紅皮症の cyclosporine による維持療法中に生じた Malignantmelanoma の死亡例、第 17 回日本乾癬学会、2002.10.11-13 鹿児島
267. 大谷稔男、櫻根幹久、古川福実：NAT2 の遺伝子型を判定した SASP による伝染性单核球症様薬疹の 2 例、第 52 回日本アレルギー学会、2002.11.28-30 横浜
268. 吉益 隆、大谷 稔男、古川福実：TCR α ノックアウトマウスによる薬剤性 DLE モデルのサイトカイン産生、第 32 回日本免疫学会、2002.12.4 東京
269. 西出武司、吉益 隆、廣井彰久、池田高治、大谷稔男、古川福実：MRL/1 p r マウスの皮膚病変部におけるサイトカイン、第 32 回日本免疫学会、2002.12.5 東京
270. 池田高治、古川福実：modefied-Rodnann TSS score を用いた強皮症の皮膚硬化に対するビタミン A 酸誘導体エトレチナートの有用性の検討、第 32 回日本免疫学会、2002.12.5 東京
271. 瀬尾尚宏、早川 智、古川福実、瀧川雅浩：初期の B16 腫瘍侵潤 γ δ T 細胞関連ケモカイン除去による抑制性 T 細胞活性化阻止と腫瘍退縮、第 32 回日本免疫学会、2002.12.6 東京
272. 岡本勝行、櫻根幹久、山本有紀、上出康二、古川福実、中峯寛和：左大腿部に巨大腫瘍を呈した anaplastic large-cell lymphoma の 1 例、第 19 回日本皮膚悪性腫瘍学会、2002.13-14. 札幌
273. 三木田 直哉、貴志知生、櫻根幹久、山本有紀、古川福実：5 劑併用療法が奏効した外陰部 Paget 病の 1 例、第 19 回日本皮膚悪性腫瘍学会、2002.13-14. 札幌
274. 酒井亜紀、浜野理佐、岸岡亜紀子、米井 希、山本有紀、古川福実：ケミカルピーリングによるざ瘡の治療効果と STAI、第 103 回日本皮膚科学会、2002.4.16-18. 京都
275. 岡本勝行、浜野理佐、岸岡亜紀子、櫻根幹久、山本有紀、上出康二、古川福実：

- 和歌山医大における皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検. 第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16-18. 京都
276. 岸岡亜紀子、岡本勝行、上中智香子、西出武司、山本有紀、古川福実、久保健太郎、黒柳能光：同種培養真皮を用いて加療した難治性皮膚潰瘍の4例. 第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16-18. 京都
277. 米井 希、山本有紀、上中智香子、岸岡亜紀子、酒井亜紀、古川福実：尋常性ざ瘡に対するグリコール酸ケミカルピーリングと抗生素療法の比較. 第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16-18. 京都
278. 西出武司、櫻根幹久、古川福実：オメプラゾール内服およびH.pylori除菌療法中に発症した薬疹の一例. 第369回日本皮膚科学会大阪地方会 2002.2.2 大阪
279. 池田高治、古川福実、片山一朗、瀧川雅浩：ステロイド性骨粗鬆症に関するアンケート調査. 第72回日本皮膚科学会静岡地方会、2002.2.23 浜松
280. 東芝輝臣、坂本泰子、古川福実：下肢リペド経過観察中に皮膚筋炎を発症した1例. 第72回日本皮膚科学会静岡地方会、2002.2.23. 浜松
281. 大谷稔男：平成13年度皮膚ガン無料相談の結果報告. 和歌山県医師会総会、2002.3.2 和歌山
282. 道和百合、廣井彰久、上出康二、古川福実：フェノバルビタールによるhypersensitivity syndromeの1例. 第370回日本皮膚科学会大阪地方会、2002.3.23 奈良
283. 大谷稔男、古川福実、河本純子：弾力線維性仮性黄色腫の1例. 第380回日本皮膚科学会京滋地方会、2002.6.1 京都
284. 池田高治：-ステロイド内服と骨への副作用・対策-の3県アンケート調査結果. 第7回和歌山県皮膚科医会、2002.5.25 和歌山
285. 金原彰子：皮膚刺激抑制肌着-アトピュアの二重盲検臨床試験の結果-. 第7回和歌山県皮膚科医会、2002.5.25 和歌山
286. 米井 希、山本有紀、上出康二、古川福実：Eosinophilic granulomaの所見を伴った巨大石灰化上皮腫の1例. 第372回日本皮膚科学会大阪地方会、
- 2002.7.13 大阪
287. 貴志知生、古川福実：筋膜炎一脂肪織炎症候群の1例. 第373回日本皮膚科学会大阪地方会、2002.9.21 神戸市
288. 廣井彰久、藤永卓治、細 隆信、上出康二：二次性皮膚クリプトコッカス症の1例. 第373回日本皮膚科学会大阪地方会、2002.9.21 神戸市
289. 上中智香子：自己表皮培養シート移植を試みた90%熱傷患者. 第8回和歌山県皮膚科医会学術講演会、2002.10.26 和歌山
290. 古川福実、山本有紀、米井希、上中智香子：TCA、フェノールによるケミカルピーリングにて加療した外陰部パジエット病の3例. 第383回日本皮膚科学会京滋地方会、2002.3.15、大津市
291. 吉田俊治：関節リウマチに対する早期薬物療法の重要性. 第32回日本臨床免疫学会総会ランチョン教育講演、東京, 2004.
292. 深谷修作、吉田俊治：膠原病に伴う肺高血圧症. 第18回日本臨床リウマチ学会総会スポンサードシンポジウム7, 札幌, 2003.
293. 小松八千代、大島久二、吉田俊治他：膠原病合併肺高血圧症の発症機序に関する基礎的検討. 第46回日本リウマチ学会総会、神戸, 2002.
294. 浅野純一郎、加藤賢一、吉田俊治他：エポプロステノールによる膠原病合併肺高血圧症(PH)3例の治療成績. 第46回日本リウマチ学会総会、神戸, 2002.
295. 江原美里、飛田俊介、石橋健一、三浦典子、安達禎之、中林巖、吉田雅治、大野尚仁：*Aspergillus*菌体の糖ならびにタンパク成分に対する抗体の検討. 真菌症フォーラム第6回学術大会2005年1月29日
296. 中林巖、吉田雅治、江原美里、飛田俊介、石橋健一、大野尚仁：剖検にて肺、脳の深在性*Aspergillus*感染症を認めたMPO-ANCA関連血管炎の1例. 真菌症フォーラム第6回学術大会2005年1月29日
297. 石橋健一、吉田雅治、大野尚仁 *Candida*、抗*Aspergillus*細胞壁グルカン抗体価の比較検討. 真菌症フォーラム第4回学術集会2003年2月22日
298. 国原 孝、山下知剛、清水元良、今井利賢、安田慶秀：Sarpogrelate

- hydrochloride はこの 5 年間にバージャー病治療に何をもたらしたか? 第 9 回北海道セロトニン (5-HT₂) 研究会 2004.2.14 札幌
299. 杉木宏司、村下十志文、吉本公洋、国原 孝、椎谷紀彦、崔田武浩、安田慶秀: 大動脈炎症候群の冠動脈入口部狭窄に対する Superior approach による自己心膜パッチ拡大の経験. 第 9 回日本冠動脈外科学会学術大会 2004.7.8-9 札幌
300. 村下十志文、杉木宏司、吉本公洋、安田慶秀: 両側冠動脈入口部パッチ形成、大動脈弁および上行大動脈置換術を施行した大動脈炎症候群. 第 57 回日本胸部外科学会定期学術集会 2004.10.20-22 札幌
301. 若狭 哲、國原 孝、椎谷紀彦、安田慶秀: 高安動脈炎治療における周術期ステロイド投与の検討. 第 24 回日本血管外科学会北海道地方会 2004.4.3 札幌
302. 杉木宏司、村下十志文、吉本公洋、椎谷紀彦、崔田武浩、安田慶秀、田中進一郎、鈴木ひとみ、鈴木隆司: 両冠動脈起始部拡大術を施行した高安動脈炎の 1 例. 第 91 回日本循環器学会北海道地方会 2004.5.15 札幌
303. 村下十志文、杉木宏司、吉本公洋、安田慶秀: 両側冠動脈入口部パッチ形成、大動脈弁置換、上行大動脈置換を行った大動脈炎症候群の 1 例. 第 7 回北海道心臓外科フォーラム 2004.5.22 札幌
304. 村下十志文 他 5 名: 大動脈炎症候群による冠動脈入口部狭窄に対する自己心膜パッチ拡大術. 第 4 回血管外科アカデミー 2004.8.21 岐阜
305. Kanetaka T, Nishikage S, Oshiro H, Miyata T, Shigematsu H: Laser Doppler skin perfusion pressure in ischemic lower limb. The 5th Congress of the Asian Society for Vascular Surgery, May 18, Singapore, Singapore 2002
306. Shigematsu H: Long-term follow up of patients with Buerger's disease in Japan. May 23, 2004, Rome, Italy
307. Shigematsu H, Shigematsu K, Miyata T, Yasuda K: The fate of Buerger's disease-Long term follow up study in Japan-, The 9th International Surgical Congress of SAARC Surgical Congress, Dec 5, 2004, Dhaka, Bangladesh
308. 宮本正章 他 第 66 回日本臨床外科学会総会シンポジウム 日本臨床外科学会雑誌 2004
309. 宮本正章 他 第 47 回日本形成外科学会総会ランチョンセミナー12 2004
310. 宮本正章 他 第 68 回日本循環器病学会総会ランチョンセミナー25 2004
311. 宮本正章 他 第 3 回日本再生医学会総会 再生医療 2004
312. 宮本正章 他 第 19 回糖尿病足病変研究会 診療と新薬 2004
313. 森下竜一、血管再生遺伝子治療薬の開発、第 3 回 日本再生医療学会総会、2004 年 3 月 23-25 (火、水、木)
314. 牧野寛史、Long Tear Evaluation of Clinical Trial of Human Gene Therapy for Peripheral Arterial Disease Using Hepatocyte Growth Factor Gene Transfer (Featured Research Session)、第 68 回日本循環器学会、2004 年 3 月 27-29 (土、日、月)
315. 橋弥尚孝、Therapeutic angiogenesis by a transcription factor; Ets-1 for peripheral arterial disease、第 68 回 日本循環器学会、2004 年 3 月 27-29 (土、日、月)
316. 小池弘美、Improvement of DiabeticNeuropathy by HGF Gene Transfer、第 68 回 日本循環器学会、2004 年 3 月 27-29 (土、日、月)
317. 植座康夫、Acceleration of wound healing by combination gene transferof Hepatocyte Growth Factor and Prostacyclin Synthase with Shima Jet、第 68 回 日本循環器学会、2004 年 3 月 27-29 (土、日、月)
318. 森下竜一、末梢動脈疾患の遺伝子治療 (教育セッション)、第 68 回日本循環器学会、2004 年 3 月 27-29 (土、日、月)
319. 森下竜一 (特別発言)、パネルディスカッション徹底討論 3 再生医療・遺伝子治療の適応と再評価: どこまで有効か、第 32 回日本血管外科学会学術集会、2004 年 5 月 13 日 (木)
320. 森下竜一、血管疾患に対する遺伝子治療の現状と紹介—閉塞性動脈硬化症から大動脈瘤まで—、第 32 回日本血管外科学会学術集会、2004 年 5 月 13 日

(木)

321. 森下竜一、遺伝子治療の虚血性心疾患治療への応用、第13回 日本心血管インターベンション学会 学術集会、2004年6月30日(水)
322. 桜井康夫、富田奈留也、富田哲也、谷山義明、小池弘美、森下竜一、シマジエットを用いたHGF遺伝子及びPGIS遺伝子導入による難治性潰瘍の治療、8回 MolecularCardiovascular Conference、2004年9月3日(金)、4日(土)、5日(日)
323. 橋弥尚孝、城信雄、青木元邦、金田安史、荻原俊男、森下竜一、ラット後肢虚血モデルに対する転写因子Ets-1を用いた遺伝子治療、第27回日本高血圧学会総会、2004年10月7日(木)～9日(土)
324. 森下竜一、閉塞性動脈硬化に対する遺伝子治療の現状(教育講演)、第52回日本心臓病学会学術集会、2004年9月15日(水)
325. 森下竜一、血管再生医療の最前線：血管再生医療の実現に向けて、第三回再生医療移植研究会、2004年11月24日(水)
326. 森下竜一、HGF遺伝子による血管再生医療の展開、第8回日本心血管内分泌代謝学会学術総会、2004年11月26日(金)
327. 桜井康夫、富田奈留也、富田哲也、谷山義明、小池弘美、大窪マリアナ今日美、森下竜一、シマジエットを用いたHGF及びPGIS遺伝子導入による難知性潰瘍の治療、第8回日本心血管内分泌代謝学会学術総会、2004年11月26日(金)
328. 森下竜一、遺伝子治療のトランスレーショナルリサーチ、第30回肝臓研究会、2004年1月17日(土)
329. 森下竜一、血管再生医学の進展開：末梢疾患から中枢疾患へ、第11回 宮崎心臓疾患研究会、2004年1月26日(月)
330. 森下竜一、Development of HGF(Hepatocyte Growth Factor) Gene Therapy Drug to Stimulate Angiogenesis、4th Annual Workshop in Japan for Progress In Clinical Trials、2004年2月14日(土)
331. 森下竜一、血管をターゲットとした動脈硬化の新しい治療戦略—薬物療法から血管再生療法まで—、第20回東邦循環器研究会、2004年2月28日(土)
- 20)森下竜一、循環器疾患の遺伝子治療—現状と未来—、第40回 秋田循環器疾患治療研究会、2004年4月9日(金)
332. 森下竜一、血管をターゲットとした生活習慣病の治療戦略、第3回臨床動脈硬化診断フォーラム、2004年4月28日(水)
333. 森下竜一、血管再生療法の基礎と臨床、第31回 細胞情報伝達系北海道研究会、2004年5月21日(金)
334. 森下竜一、遺伝子治療と再生医療、バイオ部会定例セミナー 再生医療の現状と必要な研究と技術、2004年6月23日(水)
335. 森下竜一、血管再生療法の基礎と臨床、第3回埼玉循環器フロンティア、2004年6月25日(金)
336. 森下竜一、Therapeutic angiogenesis using HGF(hepatocyte growth factor) gene to treat ischemic disease、Japan Society for the Promotion of Science Research for the Future Program Biology od neo-angiogenesis、2004年8月26日(木)
337. 森下竜一、糖尿病合併に対する血管新生治療の最前線～基礎研究から実用化まで～、第5回 Osaka Bay Diabetes Forum、2004年9月11日(土)
338. 森下竜一、透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症に対する遺伝子治療、第17回 日本透析医会シンポジウム透析医療におけるConsensus Conference2004、2004年11月14日(日)
339. 森下竜一、Application of regenerative medicine to cardiovascular disease、Autumn Scientific Session of Korean Society of Lipidology and Atherosclerosis、2003年9月26, 27日(金、土)
340. 鯉淵信孝、森下竜一、Essential Role of HGF(Hepatocyte Growth Factor)in Blood Formation in Xenopus * poster sessions、American Heart Association、2003年11月9-12日(日、月、火、水)
341. 森下竜一、遺伝子治療の臨床研究と将来展望、遺伝子治療国際シンポジウム 遺伝子治療のテクノロジーおよび臨床研究の進展と展望、2003年2月6日(木)
342. 森下竜一、血管新生を標的とした遺伝

- 子治療、第76回日本薬理学会年会、
2003年3月25日（火）
343. 森下童一、糖尿病性合併症に対する再生医学の応用、第17回 糖尿病足病変研究会、2003年6月21日（土）
344. 森下童一、血管再生を利用した循環器治療の現状と将来、第12回日本心血管インターベンション学会学術集会、
2003年6月21日（土）
345. 森下童一、血管新生の分子メカニズムの解明、第9回 成人病の病因・病態の解明に関する研究会、2003年7月5日（土）
346. 森下童一、血管疾患における遺伝子治療（HGF遺伝子を用いて）、第31回日本外科学会学術総会、2003年7月10日（木）
347. 森下童一、ヒトHGF遺伝子を用いた虚血性疾患に対する遺伝子治療、第26回 心筋代謝研究会、2003年7月19日（土）
348. 森下童一、末梢性血管疾患に対する遺伝子治療、第10回 日本遺伝子診療学会大会、2003年7月24日（木）
349. 牧野寛史、青木元邦、橋弥尚孝、山崎慶太、荻原俊男、森下童一、金田安史、末梢動脈疾患に対する肝細胞増殖因子（HGF）遺伝子による血管新生療法、第10回 日本遺伝子診療学会大会、
2003年7月24日（木）
350. 栗波仁美、青木元邦、橋弥尚孝、牧野寛史、山崎慶太、東純哉、荻原俊男、森下童一、金田安史、Long Team Evaluation of Results from 1st stage in treat-HGF、第10回日本遺伝子診療学会大会、2003年7月24日（木）
351. 小池弘美、森下童一、富田奈留也、荻原俊男、Gene Therapy to Treat Diabetic Neuropathy: Improvement Diabetic Peripheral Neuropathy by HGF Gene Transfer、2003年7月24日（木）
352. 橋弥尚孝、青木元邦、荻原俊男、森下童一、転写因子ets-1を用いた下肢虚血性疾患に対する遺伝子治療、第10回 日本遺伝子診療学会大会、2003年7月24日（木）
353. Yasushi Takeya, Ryuichi Morishita, Motokuni Aoki, Hirofumi Makino, Naotaka Hashiya, Keita yamasaki, Junya Azuma, Yasufumi Kaneda, Toshio Ogihara, Clinical results fromTREAT=HGF、The Japan Society of Gene Therapy、2003年
7月18日（金）
354. H Koike, N Tomita, M Shimamura, T Ogihara, Y Kandeda, R Morishita, Gene Therapy by naked human HGF plasmid transfer to Parkinson's Disease、The Japan Society of Gene Therapy、2003年7月18日（金）
355. 森下童一、ブラーク破綻の危険である血管新生における転写因子ets-1の重要性、第35回日本動脈硬化学会総会、2003年9月28日（日）
356. M Aoki, R Morishita, T Ogihara, Clinical results from TREAT-HGF (japan trail to treat peripheral arterial disease by therapeutic angiogenesis using hepatocyte growth factor gene transfer)、XIII th International Symposium on Atherosclerosis、2003年9月28日（金）～10月2日（木）
357. 橋弥尚孝、森下童一、青木元邦、牧野寛史、山崎慶太、東純哉、金田安史、荻原俊男、末梢動脈疾患に対する肝細胞増殖因子（HGF）遺伝子による血管新生療法、第26回日本高血圧学会総会、2003年10月31日（土）
358. 森下童一、血管再生因子を用いた新血管疾患に対する遺伝子治療、第7回 日本新血管内分泌代謝学会学術総会、
2003年11月21,22日（金、土）
359. 森下童一、循環器疾患における遺伝子医療の最前線、第5回大山心臓血管外科カンファレンス、2003年11月22日（土）
360. R Morishita(Prenary)、Current Knowledge on Cardiovascular Angiogenesis、The Third Congress of the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases、
2002年2月20日
361. R Morishita(Symposium)、Angiogenesis as an Innovative Treatment to Peripheral Arterial Disease、The Third Congress of the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases、
2002年2月20日
362. Ryuichi Morishita、Gene Therapy using therapeutic angiogenesis to treat cardiovascular disease、2002 Human Gene Therapy Symposium、2002年4月2日
363. 小池弘美、森下童一、金田安史、Co-transfection of human prostacyclin

- synthase(PGIS) Gene with angiogenic growth factors exaggerated collateral formation in ischemic hindlimb mouse、第 12 回国際血管生物学会、2002 年 5 月 13 日
364. 鯉渕信孝、森下竜一、荻原俊男、金田安史、Role of Hepatocyte growth factor(HGF) in blood formation during xenopus development、第 12 回国際血管生物学会、2002 年 5 月 13 日
365. R.Morishita、Hepatocyte Growth Factor-A New Therapeutic Agent、Therapeutic Angiogenesis & Myocardial Regeneration、2002 年 11 月 16 日
366. 小池弘美、森下竜一、富田奈留也、谷山義明、田辺忠、金田安史、Co-transfection of Human Prostacyclin Synthase(PGIS) gene with Angiogenic Growth Factors Exaggerated Collateral Formation in Ischemic Hindlimb Mouse Model、第 31 回日本心脈管作動物質学会総会、2002 年 2 月 2 日
367. 森下竜一、虚血性疾患に対する血管再生を利用した治療の現状と展望、第 32 回日本心臓血管外科学会、2002 年 2 月 15 日
368. 森下竜一、血管障害の遺伝子治療、第 22 回日本神経外科コンgres、2002 年 3 月 15 日
369. 森下竜一、再生医学の最前線：遺伝子による血管再生、第 102 回日本外科学会定期学術集会、2002 年 4 月 11 日
370. 森下竜一（座長）、血管新生療法と遺伝子治療の新展開、第 66 回日本循環器学会総会・学術集会、2002 年 4 月 26 日
371. 森下竜一、難治性循環器疾患の遺伝子治療の開発、第 66 回日本循環器学会総会・学術集会、2002 年 4 月 26 日
372. 森下竜一、閉塞性動脈硬化症の遺伝子治療—国産遺伝子治療をめざして—、第 45 回の本糖尿病学会年次学術集会イブニングレクチャー、2002 年 5 月 18 日
373. 若山幸示、森下竜一、青木元邦、山崎慶太、牧野寛史、橋弥尚孝、東純哉、村上和司、金田安史、荻原俊男、高齢者閉塞性動脈硬化症に対する HGF 遺伝子プラスミドを用いた血管新生療法の検討、第 44 回日本老年医学会学術総会、2002 年 6 月 12 日
374. 東純哉、森下竜一、青木元邦、山崎慶太、牧野寛史、橋弥尚孝、若山幸示、村上和司、金田安史、荻原俊男、高齢者ビュルガー病に対する HGF 遺伝子プラスミドを用いた血管新生療法の検討、第 44 回日本老年医学会学術総会、2002 年 6 月 12 日
375. 森下竜一、Angiogenesis/Arteriogenesis と細胞移植・遺伝子治療、第 34 回日本動脈硬化学会総会、2002 年 7 月 19 日
376. 竹屋泰、青木元邦、山崎慶太、橋弥尚孝、牧野寛史、森下竜一、荻原俊男、HGF 遺伝子治療により症状の改善が認められたバージャー病の 1 例、第 167 回日本内科学会近畿地方会、2002 年 6 月 22 日
377. 森下竜一、血管からみた生活習慣病の治療戦略—薬剤治療から遺伝子治療まで—、第 75 回日本内分泌学会学術総会、2002 年 6 月 29 日
378. 青木元邦、森下竜一、山崎慶太、橋弥尚孝、牧野寛史、荻原俊男、HGF 遺伝子を用いた末梢性血管疾患に対する遺伝子治療臨床研究、第 34 回日本動脈硬化学会総会、2002 年 7 月 19 日
379. 森下竜一、ポストゲノム時代の動脈硬化治療、第 34 回日本動脈硬化学会総会ランチョンセミナー 3、2002 年 7 月 18 日
380. 東純哉、青木元邦、牧野寛史、橋弥尚孝、山崎慶太、金田安史、森下竜一、荻原俊男、Preliminary clinical results from TREAT-HGF(Japan Trial to Treat Peripheral Arterial Disease by Therapeutic Angiogenesis Using Hepatocyte Growth Factor Gene Transfer)、第 6 回 Molecular Cardiovascular Conference、2002 年 8 月 31 日
381. 森下竜一、血管新生療法、第 50 回日本心臓病学会学術集会、2002 年 9 月 10 日
382. 牧野寛史、森下竜一、青木元邦、橋弥尚孝、山崎慶太、金田安史、荻原俊男、末梢動脈疾患に対する肝細胞増殖因子 (HGF) 遺伝子を用いた遺伝子治療臨床研究、第 25 回日本高血圧学会総会、2002 年 10 月 11 日
383. 青木元邦、森下竜一、金田安史、荻原俊男、末梢性血管疾患に対する遺伝子治療臨床研究の試み、第 17 回日本糖

- 尿病合併症学会、2002年10月12日
384. 森下童一、血管再生の遺伝子治療；糖尿病性合併症の克服に向けて、第14回北海道MMC研究会、2002年10月26日
385. 森下童一、Therapeutic Angiogenesis Genetherapy、CCT 2002 Beyond Restenosis and on to the next challenge、2002年10月30日
386. 森下童一、末梢性血管疾患のポストグノム時代の治療（教育講演）、第43回日本脈管学会総会、2002年11月7日
387. 森下童一、血管病の遺伝子治療、第23回血小板芦ノ湖カンファレンス、2002年11月10日
388. 森下童一、血管再生遺伝子治療法の臨床薬理学、第23回日本薬理学会年会、2002年12月10日
389. 小林 靖ら FDG-PET を用いた大動脈炎直接評価と臨床応用 第100回日本内科学会、福岡、2003年4月3日
390. Kobayashi Y, et al Aortitis inflammation imaged with [Fluorine-18] labeled fluoro-deoxyglucose Positron Emission Tomography (18FDG-PET). 第67回日本循環器学会学術集会、福岡、2003年3月30日
391. Kobayashi Y, et al Aortitis inflammation imaged with [Fluorine-18] labeled fluoro-deoxyglucose Positron Emission Tomography (18FDG-PET). American Heart Association Scientific Session 2002, Chicago, IL, USA, 2002年11月18日
392. 石津明洋、早瀬広子、宮武由甲子、富居一範、樋口正人、阿部麻美、外丸詩野、池田 仁、吉木 敬：自己免疫疾患モデルとしての HTLV-1 env-pX 遺伝子導入ラット。第93回日本病理学会総会、札幌。日本病理学会誌 93: 163, 2004.
393. 外丸詩野、山野嘉久、石津明洋、池田 仁、吉木 敬：ペプチド/HLA複合体の抗原特異的T細胞による獲得：抗原提示の新しい増幅メカニズム。第93回日本病理学会総会、札幌。日本病理学会誌 93: 239, 2004.
394. 馬場智久、石津明洋、宮武由甲子、外丸詩野、池田 仁、吉木 敬：HTLV-1 pX トランスジェニックラットと正常 Wistar ラットの交配種における全身性炎症性疾患の発症。第93回日本病理学会総会、札幌。日本病理学会誌 93: 240, 2004.
395. 辻 宗啓、吉木 敬、池田 仁、石津明洋：ストレス環境下における培養骨細胞の apoptosis 関連遺伝子の発現に関する検討。第93回日本病理学会総会、札幌。日本病理学会誌 93: 241, 2004.
396. 宮武由甲子、外丸詩野、石津明洋、池田 仁、吉木 敬：HTLV-1 感染による HAM 感受性ラットおよび抵抗性ラットの脊髄における遺伝子発現の解析。第93回日本病理学会総会、札幌。日本病理学会誌 93: 249, 2004.
397. 早瀬広子、石津明洋、宮武由甲子、外丸詩野、池田 仁、吉木 敬：HTLV-I トランスジェニックラットにおける CD4+CD25+regulatory T cell の解析。第93回日本病理学会総会、札幌。日本病理学会誌 93: 294, 2004.
398. 伊藤僚子、吉木 敬、池田 仁、石津明洋、外丸詩野：ヒト大腸癌培養株 DLD-1 細胞とその 5-FU 耐性株の比較。第93回日本病理学会総会、札幌。日本病理学会誌 93: 304, 2004.
399. 宮武由甲子、池田 仁、鈴木 昭、馬場智久、道又理恵、外丸詩野、石津明洋、吉木 敬：HTLV-1 感染による HAM ラット病感受性および抵抗性は脊髄における宿主の対ウイルス反応性に依存する。第34回日本免疫学会総会・学術集会、札幌。日本免疫学会総会・学術集会記録 34: 95, 2004.
400. 外丸詩野、山野嘉久、石津明洋、吉木 敬：T 細胞による抗原提示と免疫抑制機構。第34回日本免疫学会・学術集会、札幌。日本免疫学会総会・学術集会記録 34: 100, 2004.
401. 馬場智久、石津明洋、宮武由甲子、鈴木 昭、外丸詩野、池田 仁、吉木 敬：HTLV-1pX 遺伝子導入ラットと正常 Wistar ラットの交配種における胸腺異常と chronic GVHD 様疾患の発症。第34回日本免疫学会総会・学術集会、札幌。日本免疫学会総会・学術集会記録 34: 278, 2004.
402. Hayase H, Ishizu A, Higuchi M, Abe A, Tsuji M, Ikeda H, Yoshiki H. Comparative

- characterization of CD25+CD4+ T cells between HTLV-I transgenic and wild type rats. 11th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, San Francisco. AIDS Res. Hum. Retroviruses 19: S38-39, 2003.
403. Miyatake Y, Ikeda H, Yoshiki T. cDNA array analysis of the host gene expression in spinal cords of rats with HTLV-I infection. 11th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, San Francisco. AIDS Res. Hum. Retroviruses 19: S66, 2003.
404. Otsuka N, Ikeda H, Tanaka S, Ishizu A, Yoshiki T. Tissue specific expression of the env protein in fetus rats carrying a full length HERV-R gene. 11th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, San Francisco. AIDS Res. Hum. Retroviruses 19: S67, 2003.
405. Ikeda H, Abe A, Ishizu A, Hayase H, Yoshiki T. A transgenic rat model of HTLV-I induced immunological diseases: effect of the env-pX transgene to effector cells and target tissues in collagen induced arthritis. 11th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, San Francisco. AIDS Res. Hum. Retroviruses 19: S68, 2003.
406. Ikeda H, Zhao X Miyatake Y, Yoshiki T. Comparison of host gene expression during HIV-1 infection in human and rat cells. 11th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, San Francisco. AIDS Res. Hum. Retroviruses 19: S68-69, 2003.
407. Tsuji T, Ikeda H, Ishizu A., Takahashi T, Yoshiki T. Malignant transformation of epithelial thymoma developed in HTLV-I pX transgenic rat by heterotopic transplantation and its molecular analysis. 11th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, San Francisco. AIDS Res. Hum. Retroviruses 19: S71-72, 2003.
408. 吉木 敬: 血管炎症候群の病理と病因－モデル動物からみた考察－ シンポジウム2「新たな血管研究の展開」 第92回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 140, 2003.
409. 石津明洋、富居一範、早瀬広子、樋口正人、阿部麻美、辻 宗啓、辻 隆裕、高橋利幸、池田 仁、吉木 敬: HTLV-I env-pX 遺伝子導入ラットに認める免疫異常と自己免疫疾患の発症. 第92回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 167, 2003.
410. 石津明洋 : Dominant Negative ATF-1 を組み込んだシニビスウイルスベクターによる関節リウマチの遺伝子治療モデル. シンポジウム-11 「リウマチの動物モデルと遺伝子治療」 第47回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京. リウマチ 43: 235, 2003.
411. 石津明洋、富居一範、早瀬広子、阿部麻美、辻 宗啓、宮武由甲子、池田 仁、吉木 敬: 壊死性血管炎の発症における胸腺の関与について. 第5回オステオポンチン研究会生体防御機能異常ワークショップ. 第6回肝臓生物学研究会合同年会, 札幌. プログラム p45, 2003.
412. 外丸詩野、山野嘉久、吉木 敬: 抗原特異的Tリンパ球の新たな検出法: Tリンパ球によるペプチド-HLA-GFP複合体の獲得. 第2回HTLV/ATL研究会. 文部科学省特定領域研究「がん」がん疫学総括班 ATL研究推進委員会, 2003.
413. 阿部麻美、石津明洋、辻 宗啓、早瀬広子、菅谷壽晃、鈴木 昭、高橋利幸、池田 仁、吉木 敬: HTLV-I env-pX 遺伝子導入ラットに認める関節炎の発症ならびに持続機序に関する検討. 第47回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京. リウマチ 43: 411, 2003.
414. 阿部麻美、石津明洋、辻 宗啓、早瀬広子、菅谷壽晃、鈴木 昭、辻 隆裕、高橋利幸、池田 仁、吉木 敬: コラーゲン関節炎誘導による HTLV-I env-pX 遺伝子導入ラットの関節炎発症および持続機序の検討. 第92回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 223, 2003.
415. 辻 隆裕、池田 仁、石津明洋、高橋利幸、吉木 敬: 異所性移植による HTLV-I pX トランスジェニックラット 胸腺腫の悪性転化とその遺伝子解析. 第92回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 244, 2003.
416. 趙 旭東、池田 仁、宮武由甲子、山本友希代、立野正敏、吉木 敬: ヒト

- および HIV-1 感染関連遺伝子導入ラット細胞への HIV-1 感染による宿主遺伝子発現の解析. 第 92 回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 248, 2003.
417. 大塚紀幸、田中 敏、山本友希代、石津明洋、池田 仁、吉木 敬: HERV-R トランスジェニックラットにおける Env 蛋白発現と抗原性の解析. 第 92 回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 256, 2003.
418. 宮武由甲子、池田 仁、石津明洋、高橋利幸、吉木 敬: 検体摂取後の室温放置による cDNA アレイ解析結果への影響. 第 92 回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 285, 2003.
419. 山本友希代、池田 仁、石津明洋、辻 隆裕、高橋利幸、吉木 敬: TNF- α およびステロイド投与によるヒト培養血管内皮細胞の遺伝子発現への影響. 第 92 回日本病理学会総会, 福岡. 日本病理学会会誌 92: 291, 2003.
420. 辻 隆裕、池田 仁、外丸詩野、石津明洋、吉木 敬: HTLV-I pX トランスジェニックラット胸腺腫の悪性化と p16 遺伝子異常の解析. 第 62 回日本癌学会総会, 名古屋. Jpn J Cancer Res 94 (Suppl): 241, 2003.
421. 外丸詩野、山野嘉久、石津明洋、池田 仁、吉木 敬: HTLV-1env 領域における CD8+T 細胞エピトープの同定: 抗原特異的 T リンパ球の新たな検出法. 第 62 回日本癌学会総会, 名古屋. Jpn J Cancer Res 94 (Suppl): 242, 2003.
422. 早瀬広子、石津明洋、宮武由甲子、外丸詩野、池田 仁、吉木 敬: HTLV-I トランスジェニックラットにおける CD25+4+ regulatory T cell の解析. 第 33 回日本免疫学会総会・学術集会, 福岡. 日本免疫学会総会・学術集会記録 33: 42, 2003.
423. 外丸詩野、山野嘉久、吉木 敬: ペプチド/HLA 複合体の抗原特異的 T 細胞による獲得: 抗原提示の新しい増幅メカニズム. 第 33 回日本免疫学会総会・学術集会, 福岡. 日本免疫学会総会・学術集会記録 33: 270, 2003.
424. 阿部麻美、石津明洋、辻 宗啓、早瀬広子、菅谷壽晃、池田 仁、吉木 敬: HTLV-I env-pX 遺伝子導入ラットの関節炎発症機序に関する検討. 第 91 回日本病理学会総会, 横浜. 日本病理学会会誌 91: 201, 2002.
425. 大塚紀幸、田中 敏、山本友希代、石津明洋、池田 仁、吉木 敬: ERV3 トランスジェニックラットにおけるヒトレトロウイルス外被蛋白発現と免疫機能の解析. 第 91 回日本病理学会総会, 横浜. 日本病理学会会誌 91: 201, 2002.
426. 辻 隆裕、菊地和徳、土川貴裕、宮武由甲子、石津明洋、高橋利幸、池田 仁、吉木 敬: HTLV-I pX トランスジェニックラットに発生した腫瘍における遺伝子発現の検討. 第 91 回日本病理学会総会, 横浜. 日本病理学会会誌 91: 224, 2002.
427. 阿部麻美、石津明洋、辻 宗啓、早瀬広子、菅谷壽晃、池田 仁、吉木 敬: HTLV-I env-pX 遺伝子導入ラットにおける関節炎発症機序に関する検討. 第 46 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸. リウマチ 42: 386, 2002.
428. 辻 隆裕、池田 仁、菊地和徳、土川貴裕、富居一範、石津明洋、高橋利幸、吉木 敬: 異所性移植による HTLV-I pX トランスジェニックラット胸腺腫の悪性化とその解析. 第 61 回日本癌学会総会, 東京. Jpn J Cancer Res 93 (Suppl): 58, 2002.
429. 阿部麻美、石津明洋、辻 宗啓、早瀬広子、菅谷壽晃、鈴木 昭、高橋利幸、池田 仁、吉木 敬: HTLV-I env-pX 遺伝子導入ラットに認める関節炎の発症ならびに持続機序に関する検討. 第 32 回日本免疫学会総会・学術集会, 東京. 日本免疫学会総会・学術集会記録 32: 296, 2002.
430. 居石克夫 日本病理学会、日本動脈硬化学会など多数。
431. 小森浩章、岩崎美津子、森士朗、能勢眞人. 新規組換え近交系 MXH/lpr マウスによる膠原病病態、病理の時間動態と遺伝的基盤の解析. 日本病理学会会誌 93(1): 217, 2004
432. 小森浩章、寺田美穂、岩崎美津子、小野栄夫、森士朗、能勢眞人. 新規組換え近交系マウスを用いた膠原病の環境要因感受性のゲノム解析. 第 21 回日本疾患モデル学会総会、京都. 2004.11.11-12
433. Komori H, Terada M, Tsuji Y, Iwazaki M,

- Mori S, Nose M. Attempt on genetic analysis of the susceptibility to an environmental chemical using a new set of recombinant inbred strain of mice MXH/lpr. 1st International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 18-19 March 2004, Matsuyama, Japan
434. Komori H, Terada M, Ito MR, Hata K, Nozaki Y, Mori S and Nose M. Genetic dissection of autoimmune disease phenotypes in a new recombinant inbred strain of mice MXH/lpr. 1st International Conference on Basic and Clinical Immunogenomics, Oct. 3-7, 2004, Budapest, Hungary
435. 小野栄夫、吉田美奈子、能勢眞人. 自己免疫病の正常化を表現型とする自然突然変異マウスの研究：糸球体腎炎の病態解析 日本病理学会会誌 92(1): 166. 2003
436. 能勢眞人、曲衛敏、宮崎龍彦、寺田美穂、岩崎美津子、小野栄夫、菅野祐幸. poly I:C 投与による自己免疫性腎炎、原発性胆汁性肝硬変の誘導、第 33 回日本病理学会総会、福岡、2003.4.24 日本病理学会会誌 92(1): 345. 2003
437. 長谷川均、河野政志、佐々木美穂、井上淳、村岡正武、能勢眞人、藤田 繁. ケモカインアンタゴニストによる MRL/lpr マウスの唾液腺炎抑制効果の検討 Ryumachi 43(2): 305. 2003
438. 小野栄夫、小森浩章、能勢眞人. 自己免疫病モデルマウスの正常化突然変異種の研究：糸球体腎炎の病態解析 日本免疫学会総会・学術集会記録 33: 130. 2003
439. Zhang MC, Ono M, Miyazaki T, Nose M. Interaction of the two genetic loci responsible for vasculitis onset in murine model. 日本免疫学会総会・学術集会記録 33: 197, 2003
440. 小森浩章、岩崎美津子、小野栄夫、森士朗、鈴木和男、能勢眞人. 組換え近交系 MXH/lpr 系マウスを用いた膠原病病態とそのゲノム的基盤の解析 日本免疫学会総会・学術集会記録 33: 215. 2003
441. 吉田美奈子、有田典正、寺田美穂、小野栄夫、能勢眞人：ループス腎炎の感受性遺伝子の解析：EOD ループスマウスに発症した毛色変質からのアプローチ、第 91 回日本病理学会総会、横浜、2002.3.26
442. 宮崎龍彦、小野栄夫、澤崎達也、遠藤八重太、能勢眞人：オステオポンチン多型蛋白によるマクロファージに対するプライミング効果の機能的差異の解析、第 91 回日本病理学会総会、横浜、2002.3.28
443. 大石久史、水木伸一、鶴川淳二、寺田美穂、椿崇仁、宮崎龍彦、小野栄夫、山本晴康、能勢眞人：関節炎モデルマウスのゲノム解析：enthesopathy の感受性遺伝子座と促進遺伝子座の同定、第 46 回日本リウマチ学会総会・学術集会、2002.4.24
444. 中谷公彦、藤井博司、長谷川均、吉本宗平、寺田美穂、岩野正之、椎木英夫、能勢眞人：可溶性 E-selectin による MRL/lpr マウスの管内増殖型糸球体病変に対する抑制効果、第 45 回日本腎臓学会学術総会、2002.5.24
445. 小野栄夫、中谷公彦、能勢眞人. 加齢に伴う脾臓 B 細胞数の減少を規定する遺伝要因、第 32 回日本免疫学会総会、東京、2002.12.4
446. Kazuo Suzuki, Eri Muso, Shigeto Kobayashi, Toshiko Ito-Ihara, David Scott, Richard Watts, Oliver Flossmann, Suzanne Lane, and David Jayne. Japan-UK Vasculitis Epidemiology Study - First meeting, Emmanuel College, Cambridge, UK
447. Aratani, Y., Kura, F., Watanabe, H., Akagawa, H., Takano, Y., Suzuki, K., Dinauer, M., Maeda, N., and Koyama, H: In vivo role of myeloperoxidase for the host defense. The 4th international Peroxidase Meeting, October, 2004 (Japan).
448. Suzuki K, Muso E, Nauseef WM: Contribution of peroxidases in host-defense, diseases and cellular functions. The 4th International Peroxidase Meeting, Joint with the 10th Myeloperoxidase Meeting 2004.10.27-30 (Kyoto)
449. Muso E, Ito-Ihara T, Ono T, Imai E, Yamagata K, Akamatsu A, Suzuki K: Intravenous immunoglobulin (IVIg) therapy in MPO-ANCA relatedpolyangiitis with rapidly progressive

- glomerulonephritis in Japan 2004. The 4th International Peroxidase Meeting, Joint with the 10th Myeloperoxidase Meeting 2004.10.27-30, Kyoto
450. Akiyoshi Hoshino, Akiko Ishida-Okawara, Toshiko Ito-Ihara, Eri Muso, Masato Yasuhara, Taeko Dohi, Kenji Yamamoto, and Kazuo SUZUKI Fluorescent labeling of cells and biomolecules with nanocrystal quantum dots - MPO expressed on surface of activated neutrophils with Quantum dot-conjugated antibody. 4th International Peroxidase Meeting. Oct 27-30, 2004, Kyoto
451. 村山研、長尾朋和、鞍馬秀輝、長谷川明洋、船津高志、南谷晴之、新井孝夫、中山俊憲、鈴木和男 血管炎における活性化好中球の CD69 分子 第 34 回京都腎臓免疫研究会、京都、5 月 22 日
452. 宇野賀津子、猪原登志子、田原佐知子、田中麻理、米本智美、塚本達雄、深津敦司、鈴木和男、岸田綱太郎、武曾恵理 腎炎患者における末梢血リンパ球分画の IL12/IL18 への反応性の検討 第 34 回京都腎臓免疫研究会、京都、5 月 22 日
453. 猪原登志子、小野孝彦、深津敦司、北徹、鈴木和男、武曾恵理。ANCA 関連腎炎・血管炎に対するヒト免疫グロブリン(IVIg)治療 15 例における治療効果と 6 ヶ月予後の検討。第 47 回日本腎臓病学会学術総会。平成 16 年 5 月 27 日。栃木
454. 大原閔利章、横内 幸、若山 恵、三浦典子、鈴木和男、大野尚仁、直江史郎、村田久雄、高橋 啓 カンジダ誘導マウス動脈炎モデルにおける動脈炎成立過程の組織学的検討 第 93 回日本病理学会総会、2004/6/9-11、札幌
455. 活性化好中球による血管炎発症への関与_MPO-ANCA による糸球体内皮細胞傷害_生体防御機能異常ワークショップ 2004、2004 年 6 月 17~18 日 (沖縄)
456. 長尾朋和、松村実美子、馬渕綾子、越尾修、南谷晴之、鈴木和男 MPO-ANCA の糸球体内皮細胞への作用 生体防御機能異常ワークショップ 2004、2004 年 6 月 17~18 日 (沖縄)
457. 荒谷康昭、倉 文明、渡辺治雄、高野幸枝、鈴木和男、小山秀機 ミエロペルオキシダーゼと真菌感染 生体防御機能異常ワークショップ 2004、2004 年 6 月 17~18 日、(沖縄)
458. 荒谷康昭、倉 文明、渡辺治雄、高野幸枝、鈴木和男、小山秀機 ミエロペルオキシダーゼ欠損マウスの生体防御能 第 26 回 日本フリーラジカル学会学術集会、2004 年 6 月 24~25 日 (山形)
459. 大原閔利章、高橋 啓、三浦典子、大川原明子、村山 研、土田和徳、金城義明、金子健二、大野尚仁、鈴木和男 川崎病類似マウス系統的動脈炎モデルにおけるヒト免疫グロブリンの治療効果の検討 第 40 回日本小児循環器学会総会、抄録、2004/6/30~7/2、東京
460. 村山研、長尾朋和、鞍馬秀輝、長谷川明洋、船津高志、南谷晴之、新井孝夫、中山俊憲、鈴木和男 第 15 回日本生体防御学会 (長崎) 「血管炎における活性化好中球の CD69 分子」
461. 長尾朋和、松村実美子、馬渕綾子、越尾修、南谷晴之、鈴木和男「MPO-ANCA による糸球体内皮細胞の粘着分子 Up-regulation」 第 15 回日本生体防御学会 (長崎) 鈴木和男 第 11 回代替血液学会 (札幌) 「免疫グロブリンの血管炎抑制効果と人工化」
462. 大川原明子、三浦典子、大原閔利章、高橋 啓、岡村春樹、大野尚仁、鈴木和男「血管炎を誘導する CAWS 投与初期のマウス好中球活性化とサイトカインの変動」 第 69 回日本インターフェロン・サイトカイン学会 (三沢)
463. 小野孝彦、猪原登志子、劉寧、北徹、雜賀寛、根本久一、武曾恵理、大川原明子、鈴木和男 第 16 回腎とフリーラジカル研究会 (京都) 「好中球活性化、活性酸素産生とフィブリン沈着を介した SCG/Kj マウスにおける半月体形成機序」
464. Ouhei Koshimizu, Satoshi Yamagoe, Kazuo Suzuki, and Michiko Ohtomi. "Expression and localization of LECT2 in mouse brain" 第 27 回日本神経科学会・第 47 回日本神経化学会合同大会 (大阪)
465. Akiyoshi Hoshino, Ken Murayama, Akiko Ishida-Okawara, Toshiko Ito-Ihara, Eri Muso, Noriko N. Miura, Naohito Ohno, Masato Yasuhara, Kenji Yamamoto, and Kazuo Suzuki. MPO Expressed on the Surface of Activated Neutrophiles with

- Quantum Dot-conjugated Antibody. 第13回バイオイメージング学会学術集会
11/4-6、京都)
466. H. Sankawa, Y. Kameoka, N. Miura, N. Ohno, and K. Suzuki. Gene Expression in Splenocyte Response to CAWS Injection of Two Murine Strains. The 4th International Peroxidase Meeting Joint with the 10th Myeloperoxidase Meeting 2004. 11. 15 京都
467. 三川浩輝, 龜岡洋祐, 三浦典子, 大野尚仁, 鈴木和男 c DNAマイクロアレイによる血管炎惹起物質 C. albicans 由来菌体外多糖 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004. 12. 01 札幌
468. 三川浩輝, 龜岡洋祐, 三浦典子, 大野尚仁, 鈴木和男 c DNA マイクロアレイ解析による血管炎に関与する炎症性分子の遺伝子発現 第27回日本分子生物学会年会 2004. 12. 08 神戸
469. Suzuki, K.: Role of activated neutrophils in vasculitis development: in-vivo imaging. Seminar in the Department of Biochemistry, New York City, USA.
470. Aratani, Y., Kura, F., Watanabe, H., Akagawa, H., Takano, Y., Suzuki, K., Dinauer, M.C., Maeda, N., and Koyama, H.: Critical role of myeloperoxidase and nicotinamide adenine dinucleotide phosphate-oxidase in high-burden systemic infection of mice with Candida albicans. Gordon Research Conferences, June 8-13, 2003, New London, USA.
471. Kazuo Suzuki: Role of activated neutrophils in vasculitis development. Gordon Research Conferences, June 8-13, 2003, New London, USA.
472. Nagao, T., Koshio, O., Mabuchi, A., Ohno, N., Takahashi, K., Minamitani, H., Suzuki, K.: Imaging of renal microvascular injury induced by immune abnormality. Gordon Research Conferences, June 8-13, 2003, New London, USA.
473. Koshio, O., Nagao, T., Ishida-Okanara, A., Mabuchi, A., Suzuki, K.: The contribution of PMN and the degranulated substances to the activation of p38 MAPK and Caspase 8 in the introduction of Apoptosis of human endothelial cell. Gordon Research Conferences, June 8-13, 2003, New London, USA.
474. Kazuo Suzuki: Role of activated neutrophils in vasculitis development: in-vivo imaging. Seminar in Marine Biological Laboratories, Woods Hole, USA
475. Kazuo Suzuki: In-vivo Imaging of Vasculitis. International Symposium Sponsored by Center of Excellence for Advanced Life Science on the Base of Bioscience and Nanotechnology, July. 19, 2003. Sapporo
476. Manger, B., Suzuki, K.: Chair Talk: The Use of IVIG in Collagen Vascular Diseases, Vasculitis and Atherosclerosis. 5th International Symposium on IVIG-Intravenous Immunoglobulins in the Third Millennium, Sep. 25-27, 2003, Interlaken, Switzerland.
477. Ito-Ihara, T., Suzuki, K., Ono, T., Nogaki, F., Suyama, K., Kita, T., Muso, E.: Beneficial effect of intravenous immunoglobulin for patients with myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA)-associated rapidly progressive glomerulonephritis. 5th International Symposium on IVIG-Intravenous Immunoglobulins in the Third Millennium, Sep. 25-27, 2003, Interlaken, Switzerland.
478. Suzuki, K.: Cytokine levels in the development of vasculitis in human and mice. Seminar in Addenbrookes Hospital. 2004, Jan 29, 2004, Cambridge, UK.
479. Suzuki, K.: Contribution of MPO and neutrophil activation to vasculitis development -in vivo and in vitro. Seminar in Department Medicine-2004, Feb 23, 2004, San Antonio, USA.
480. Suzuki, K.: Contribution of MPO and neutrophil activation to vasculitis development -in vivo and in vitro. Seminar in Inflammation Group-2004, Feb 25, 2004, Iowa, USA.
481. 猪原登志子、小野孝彦、野垣文昭、北徹、鈴木和男、武曾恵理：ANCA 関連腎炎・血管炎に対するヒト免疫グロブリン(IVIg) 治療効果の検討. 第46回日本腎臓病学会学術総会、平成15年5月23日、東京。
482. 鈴木和男：血管炎の研究がめざす新たな展開：特に ANCA 関連血管炎. 第5回オステオポンチン研究会、生体防御